



もりた ぎょうすけ
工事部 主任 森田 恭丞

工 事部主任の森田恭丞さんは、2016年4月、株式会社藤栄設備の一員になりました。さまざまな経験を経て、自信をつけていった森田さん。インタビュを通して、困難を乗り越える強さの源泉が見えてきました。

入社されて以降、最も印象に残っているお仕事は何ですか？

渋谷スクランブルスクエアの工事です。最初は作業員として携わっていたのですが、2018年から監督という立場になりました。

監督となったからには人前で話をする機会が増えるのですが、実は、スピーチをするのが大の苦手。朝礼で話をするときには、緊張のあまりなかなか言葉が出ませんでした。

それでも場数を踏み、失敗を教訓とするうちに少しずつ自分なりの方法がつかめてきました。何より、「監督としてきちんと現場のメンバーに指示を出さなければ」との思いが高まるにつれ、

ものはどんどん取り入れてくれる懐の深さもあります。教えていただいたことを誇りに思い、その名を汚さないように良い仕事をしていかなければなりません。

しかし、飯岡さんから得た学びは、今業界の中で失われつつあります。それを受け継いだ身として、次世代の人たちにしっかりと引き継いでいくことが、今後の自分の使命であると思っています。

師の背中を追いかけ、走り続けてきた森田さん。その経験を糧に、いつか飯岡さんと同じように後輩の目標となる日も、遠くないでしょう。

企業情報

設立年：平成6年5月27日
年商：3.6億円
従業員数：27名
(従業員19名、建設就労者2名、
実習生6名)

※2019年3月時点

自然と声が出るようになっていきましてね。初めて監督として立たせていただいたという点で、とても思い出に残っています。

朝礼のとき、一番力を入れたスピーチはどのようなものですか？

私が監督をしていたとき、搬入の際に建物を傷つけるという事故が起きてしまいました。その結果、工事の予定が大きく崩れ、ほかの業者さんの工期も遅れてしまうという事態に発展。この事故をもとに新たなルールが作成されたため、新規参入の業者さんにも影響が出てしまうなど、広範囲にわたり迷惑をかけてしまったのです。

そのため、翌日の朝礼の際に、代表として私が謝罪をする事になりました。朝礼に参加する作業員は、およそ1500人。本番までに何度もメモを書き、しっかりと気持ち伝わる言葉を探しました。

当日はご迷惑をおかけしたことを誠心誠意謝罪しました。厳しい言葉が飛んでくるのも覚悟していたのですが、そのような声上がることもなく、と

てもありがたく感じたものです。

指示を出す立場である以上、何かあれば自分が前面に出なければなりません。代表として謝罪をした経験は、その覚悟を持つことの大切さを実感させてくれました。それ以降、少しずつ「監督」としてステップアップしていると思います。

現在、2級管工事施工管理技士の資格をお持ちでいらっしゃる森田さんは、1級を目指して勉強を続けていると伺っています。その経緯について教えてくださいませんか？

前職時代、私はあまり自信がありませんでした。そんな自分を鼓舞するため、「目に見える形で自信につながるものが欲しい」と思い、この資格を取得しようとして決意しました。

無事2級に合格した後「さらに高みを目指したい」と考えるようになり、今は1級に向けて挑戦中です。ただ、なかなか合格が難しく、これまでも試験を受けたものの、空振りに終わってしまっています。

不合格になれば落ち込みもします

が、「次こそは」と気持ちを切り替え、自宅や通勤途中にテキストを読み込んでいます。また、やはり現場は最高の勉強機会ですね。今の仕事をしっかりと深く理解していくことが、合格への近道になるのではと思います。

前職時代で、思い出に残っている出来事は何がありますか？

私が空調設備の業界に入ったのは、21歳のときでした。前に勤めていた企業は、私の父が経営している会社でした。時代の波にもまれる中、残念ながら父は会社を畳む決断をし、私は藤栄設備にて再出発をすることとなったのです。

その前職時代、新人だった私を鍛えてくださったのが、今同じく工事に勤めている飯岡富男さんです。飯岡さんは職人として非常に優秀な方で、普通の人ならできないような難しい仕事をいくつも成功させてきました。

その一方で、自分の考えに固執せず、私のような若手に対しても「何か思うところがあったら、いつでも意見をしてほしい」と言ってくださるなど、年齢や経験の垣根を超え、良いと思った

社員の皆さんと そのご家族の みなさんへ

藤原 社長



一部地域は緊急事態宣言が解除され、さらに感染者の数が減っているという情報が増え始めています。しかし検査数や報道の内容は、あくまで個人の意見ですが信用をしていません。ここで気を緩めず、今後変わらず対策していく必要があると考えています。

現場社員の方はこのような状況下でもいつもと変わらずに働いていきます。ですが、万が一現場から感染者が出たときに備え、対応を考慮しておかなければなりません。どこで感染者が出たのかを明確にすることや、業務再開後に遅れを取らないようにスムーズに仕事ができる環境を作ることなどです。

コロナが深刻化する2月ごろから、当社は対策として社員全員で集まることを控えてきました。今年度は社員旅行も延期になってしまい、次に皆さんと顔を合わせるのがいつになるのかわからない状況です。コロナが収束したら、みんなで美味しいものを食べに行きましょう！

新型コロナウイルスに感染する可能性が少なからずあるのに、外出して現場に行かなければならぬ社員自身、さらにそのご家族もとても不安だと思っています。工事は現場で仕事をしないと進まず、業務の目数を減らしたら、工事の遅れを取ってしまい全体に支障をきたしてしまいます。そのようなことが起きず、滞りなく業務を行えるよう日々現場に向かっています。感染防止対策は怠らないように、会社としても最大限のサポートは致しますので、安全に働いていただきます。

藤原 専務



新型コロナウイルスの蔓延に関係なく、基本的には手洗いうがいは日頃から行ってほしいと考えています。しかし、実際には現場で石鹸やマスクが足りておらず、それゆえ十分な対策ができなかった方もいたと聞きました。このようなことがあると不安を感じる方も多いでしょう。今後はアルコール除菌の配布などの対応もしていきたいと考えています。

これからの時期は熱中症の対策も行わなければなりません。例えば、気温が高くなってきたりマスクを着用していると暑さにやられてしまいます。また、涼むために閉め切った環境の室内にいますと、コロナに感染する可能性が高まってしまいます。コロナも熱中症も対策を取ってくださいと口で言うのは簡単です。実際行うのは非常に難しいと思いますが、熱中症対策グッズを会社として用意しています。それらを最大限に活用しながら、自身を守っていきましょう！

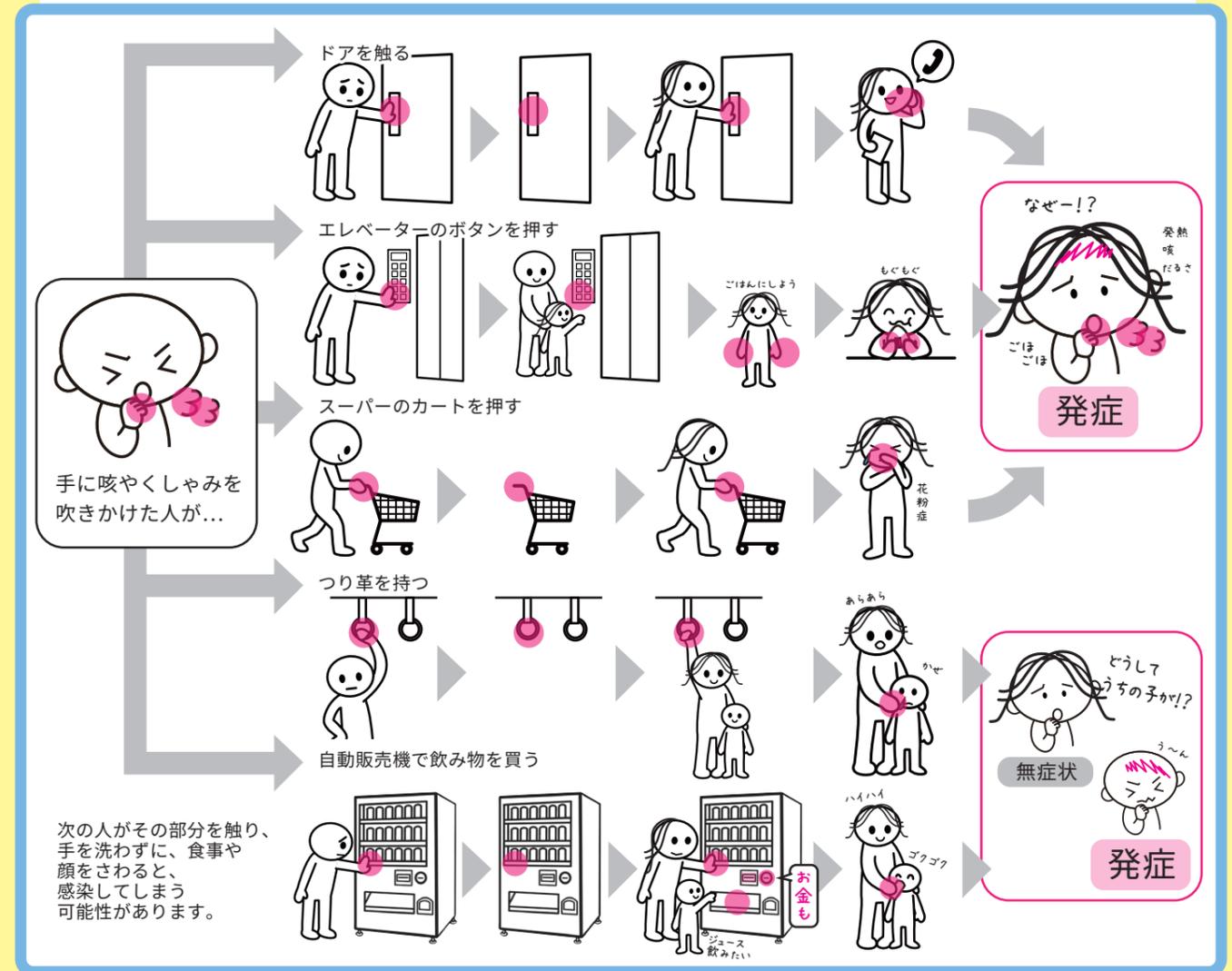
新型コロナを 乗り越えるために

Vol. 2

感染者数などは落ち着いてきましたが、引き続き対策をすることに越したことはありません。前回紹介した感染方法の感染経路について、今回は具体的な例で紹介していきます。

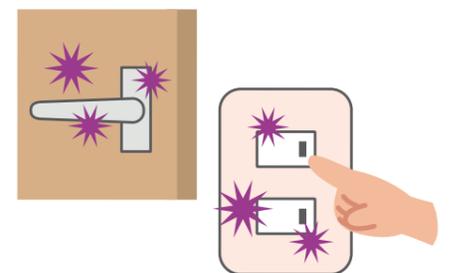
こんなところにも接触感染のリスク！

空気感染、飛沫感染はマスクや密を避けるなど、多くの人が気をつけていると思います。最近は減ってきましたが、感染経路不明の感染者はなぜでてるのでしょうか？それは接触感染による感染の可能性もあるのです。具体例をみてみましょう！



ウイルスは手から離れても数時間生きる

例えば厚紙にウイルスが付着しても24時間近く、プラスチックだとそれ以上菌は感染力を維持する可能性があると言われています。食事の前には必ず手洗いうがい、アルコール除菌をすることが大切になります。誰かが触ったところには菌があるかも知れない、私自身にも菌があるかも知れない、と思うことが予防の第一歩です。感染者を出さずに元気に乗り切れるように、一丸となって頑張っていきましょう！



6月の
誕生日社員

Happy Birthday

6月の誕生日の方です！
おめでとうございます！

6月4日 小川雄司さん